

炎症をゼロにする化粧品





医療の当たり前で 化粧品を変える

スキンキュア・ラボは
全国1,400以上の医療機関が採用する
メイク&スキンケアを手がけています。

炎症リスクを徹底的に取り除く「過剰な安全性」が評価されています。

「先生、いつか私も メイクできる日がきますか？」

治療を“診療の外”から支える

尋常性ざ瘡の治療は、炎症が収まったあとに残る色素沈着や跡など
保険診療ではフォローできない先をどうするか。

「しばらく化粧をやめましょう」と伝えられた女性は仕事や買い物など、どう生活するか。
多くの皮膚科専門医が患者に寄り添う限界に悩んでいました。

顔の赤みが続く女性患者に「いつか先生みたいに化粧ができる日は来ますか？」と聞かれて
「いつかではなく、今すぐ使えるメイクを作るから待っていてほしい」と
1人の女性皮膚科専門医が手作りして渡したパウダーが原点です。



皮膚科学に基づいた 美肌理論

目に見えない炎症もゼロを目指す

本来、化粧品は流行や広告のフレーズではなく日本皮膚科学会の「診療ガイドライン」などエビデンスレベルが高い情報に基づいて選ぶべきです。ところが、医学で出ている結論は多くの女性に行き渡らず、ガイドラインの存在すら知りません。

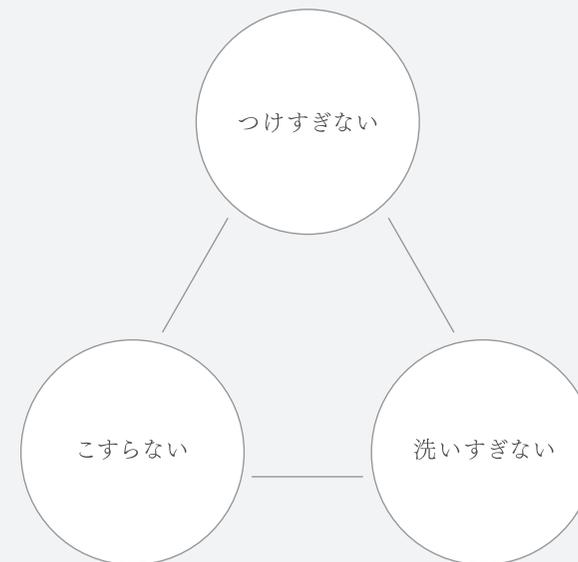
市販のファンデーションは、仕上がりや密着性を向上させるために油分を配合しています。油分は酸化すると過酸化脂質に変化して活性酸素を発生させます。これを軽減するために酸化防止剤も配合されます。油分を洗い落とすために洗浄力が強いクレンジングが必要で、大量の界面活性剤が角質にあるセラミドや天然保湿因子(NMF)まで洗浄してバリア機能を低下させます。

女性にとって、化粧品はリスクがあります。

例えば食品は好みによる選択が主となりますが化粧品はテスターやサンプルで肌との相性を確認する「お試し」があります。「好み」の前に「肌に合うか」の評価が必要です。これは医薬品における副作用の確認に似ています。

赤みやかゆみといった明らかな症状があれば使用を中止しますが、使用中に自覚できないほど微細な炎症が続くこともあります。患者の「加齢によるくすみ」が、診察で炎症後色素沈着と指摘されるケースも少なくありません。

私たちは、たとえ小さな炎症でもひとつずつ丁寧に取り除くことが皮膚のやさしさと美しさを引き出す道と考えます。



3つの理論に基づいています。

[つけすぎない]

化粧品に配合される成分は、皮膚にとっては異物です。皮膚に触れる成分が多いほど皮膚の負担は大きくなり、接触皮膚炎のリスクが高まります。過度のスキンケアは、皮膚の本来あるべき機能の妨げになります。アイテムや成分が多いほど皮膚がキレイになるわけではありません。皮膚にとって必要最小限を選ぶべきです。

[こすらない]

日本人の皮膚は弱い刺激でも炎症後色素沈着や肝斑などの皮膚トラブルを引き起こします。皮膚の角層細胞を「伸張」させても「収縮」させても炎症性因子が発現します。化粧品をすり込む、皮膚の上でのばす、ゴシゴシ洗うなど皮膚を無駄に動かすことは、慢性的な炎症の原因です。皮膚はやさしく、そっと摩擦が起こらないように最小限に触れてください。

[洗いすぎない]

洗浄力の強い洗顔料が長時間、皮膚に触れていると、角質にあるセラミドや天然保湿因子(NMF)まで流れ落ちます。落ちにくい化粧品や「しっとり」「潤う」にこだわった過剰な保湿ケアは、落とすときに界面活性剤を多用することになり、皮膚の負担が大きくなる一因です。洗いすぎないためにも「つけすぎない」ことが大切です。

メイクアップ



炎症が減るから素肌が改善する

スキンキュア・ラボは根拠のあるやさしさを届けるために一つひとつのリスクを見つめる「皮膚科専門医の視点」を取り入れています。

1 最小限の成分

接触皮膚炎の可能性を最小限にするため、肌に触れる成分数を厳選。

2 成分の選定

皮膚トラブルのリスクが少なく、酸素や熱、湿度に安定した成分を選定。

3 高い純度

化粧品や医薬部外品、食品より厳しい独自の基準を設定。

4 ナノ粒子は不使用

毛穴詰まりのリスクを軽減。

5 石けんでメイクオフ

界面活性剤の多用で皮膚にかかる負担を軽減。

6 4つの安全性試験をクリア

第三者機関でも品質を確認。

[ファンデーション]

皮膚のために「目に見えないこだわり」を積み重ねる

徹底的にリスクを減らす

化粧品に使われる原料はすべての人に安全ではありません。肌に合わない確率が1成分で仮に1%でも、20成分であれば18.2%、50成分だと39.5%…と上がります。重度な炎症はもちろん、微細な炎症は使用者本人が気付かず化粧品の使い続けていることもあるので、そのリスクを軽減するために、成分数を最小限に厳選しています。

一般的なファンデーション 全30~60成分ほど

スキンキュア・ラボのファンデーション 全4成分

成分表示だけではわからないこと

例えば、ファンデーションで着色のために使われる酸化鉄には化粧品原料として国が定めた規格がありますが、検査項目は亜鉛とヒ素など少数の成分に限られます。しかし、不純物の代表例であるニッケル、クロム、コバルトなど、金属アレルギーのリスクが高い成分は計測項目に含まれません。スキンキュア・ラボは厚生労働省の基準を大きく上回る純度で、スズや水銀など多くの成分について厳しく制限しています。

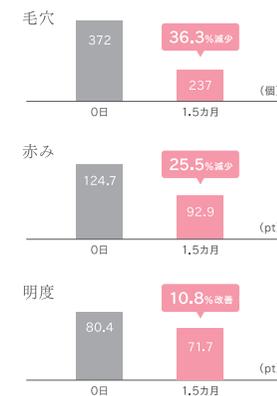
酸化鉄の不純物 (ppm)

	Pb	As	Hg	Cd	Zn	Ba	Cr	Cu	Ni	Sb	Co	Mo	Sn	Se
化粧品用	≦40	≦10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
医薬品用	≦10	≦3	≦1	≦5	≦100	≦50	≦100	≦50	≦200	—	—	—	—	—
スキンキュア・ラボ	≦2	≦2	≦1	≦1	≦35	≦5	≦20	≦10	≦10	≦1	≦20	≦5	≦1	≦1

素性の変化を起こさない	皮膚の常在菌に影響を及ぼしにくい	摩擦を起こしにくい
汗や皮脂に反応しない	活性酸素を除去する	残留性が少ない
発色がよく、余分な成分が不要	アレルギー反応を起こしにくい	

改善効果

素肌の改善



試験期間:1.5カ月 試験方法:ベースメイクをスキンキュア・ラボのメイク下地、ファンデーションに変更。皮膚をre+Beau2で測定。

スキンケア



「炎症減+効果」で皮膚が変わる

皮膚へのやさしさを引き継ぎながら、悩みの解消に持続的に効果を発揮します。一時的な満足を目指さず、皮膚の本質を引き出すエビデンス スキンケアです。

高濃度や有効成分だけを重視しない

多くのスキンケアは「ビタミンC高濃度配合」「植物由来の成分20種類配合」といった訴求で販売されています。

成分の濃度は高いほど効果が上がるとは限らず、濃度が一定以上になると炎症リスクが加速度をつけて上がります。効果は成分ごとの足し算とは限らず、互いの作用を底上げすることも打ち消すこともあります。

それぞれの成分の特性を適切に判断した処方設計が多くの信頼を集めています。

「落とす」も「補う」もすべて安全性試験クリア

洗顔料など洗い流すスキンケアは、一般に安全性試験を行わないのが主流です。

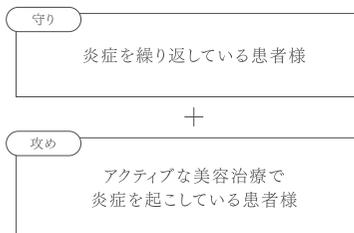
短時間でも皮膚に触れること、残存の可能性がゼロでないことに留意して、洗顔料も妥協せずすべての製品で4つの安全性試験をクリアしています。



[美容液]

「守り」も「攻め」も美肌理論に忠実に

スキンケアの代表製品である美容液は、クリニックのイオン導入で使う導入液として誕生しました。美肌理論のなかでもとくに「つけすぎない」に焦点をあてた製品で、炎症を起こさず改善結果を出すことから、敏感肌の患者様を診る保険診療とともに多くの美容領域の先生方から支持されています。

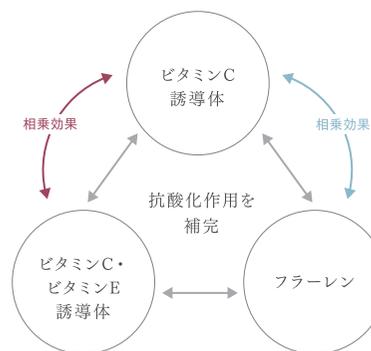


炎症を起こさず抗酸化サイクルを持続

- ・ 炎症リスクを減らしたシンプル処方
- ・ 適正な濃度とバランスによる高い機能性
- ・ ビタミンC誘導体/ビタミンC・ビタミンE誘導体/フラーレンの相互作用で持続性する抗酸化構造

守りと攻めの両方に効果を発揮します。

特長成分の相乗効果

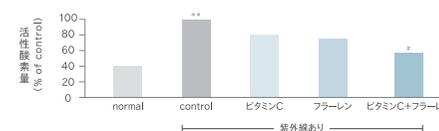


→ ビタミンC誘導体とビタミンC・ビタミンE誘導体の相乗効果

	活性酸素	過酸化脂質モデル
ビタミンC誘導体_B	1000±60	1940±60
ビタミンC誘導体_C	2660±220	5300±560
ビタミンC・ビタミンE誘導体	158±4	171±20

出典元: T. Imanura et al., *Fragrance Journal* 34 (10), 63-68 (2006).
 ビタミンC・ビタミンE誘導体が皮膚表面で高い活性酸素消去能を示すことで、ビタミンC誘導体の皮膚内部への浸透が示唆される。

→ ビタミンC誘導体とフラーレンの相乗効果



** p<0.01 vs normal
 # p<0.05 vs control
 出典元: S. Ito et al., *Toxicology* 267, 27-38 (2010).

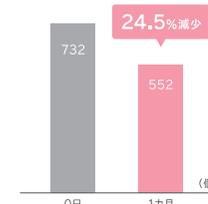
ビタミンCとフラーレンを併用することにより、紫外線により発生した活性酸素が効果的に抑制された。ビタミンC誘導体とフラーレンにも同様の相乗効果を発揮する。

改善効果

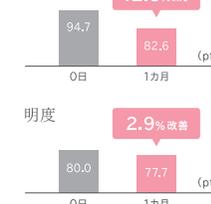
素肌の改善



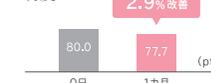
毛穴



赤み



明度



試験期間: 1か月 試験方法: スキンキュア・ラボ化粧水、美容液、クリームを1日2回(朝晩)全顔に塗布。皮膚をre-Beau2で測定。

皮膚科専門医と 共につくる

診療の合間に寄せられる声

私たちは、皮膚科専門医の先生方と共に、現場の声を反映した化粧品づくりに取り組んでいます。

診察の合間にいただくご意見は、製品の本质を問う声が多く含まれます。

「この成分、長期使用でトラブルは？」

「患者に勧めるなら、これも計測して」

「安心して使うために、エビデンスレベルを上げたい」

「ダウンタイムでも使えるようにしたい」

こうした臨床現場のリアルな指摘や要望が、製品の改良や開発の起点となります。お忙しい先生方をご協力してくださるのは、臨床で必要とされる化粧品という理念への共感があるからです。

「医師の声を“化粧品に翻訳”」する

皮膚科には、生活に直結する悩みが多くあります。

患者さんの見過ごされがちな小さな悩みや長期使用の皮膚ストレスまで着目して医師の知見を「医療のいいこと」として、患者様にお届けできることが私たちの強みです。

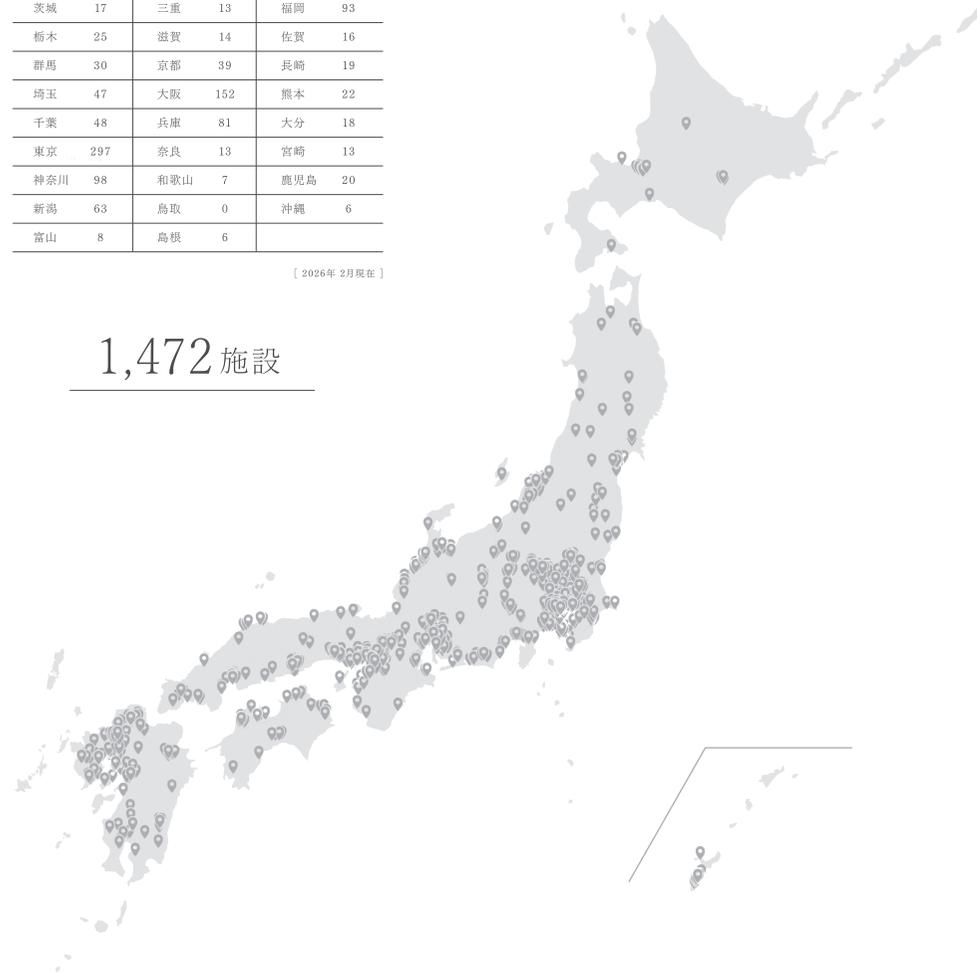


取扱い施設数

北海道	27	石川	18	岡山	17
青森	2	福井	12	広島	16
岩手	2	山梨	9	山口	11
宮城	12	長野	17	徳島	5
秋田	5	岐阜	13	香川	6
山形	2	静岡	24	愛媛	19
福島	6	愛知	79	高知	5
茨城	17	三重	13	福岡	93
栃木	25	滋賀	14	佐賀	16
群馬	30	京都	39	長崎	19
埼玉	47	大阪	152	熊本	22
千葉	48	兵庫	81	大分	18
東京	297	奈良	13	宮崎	13
神奈川	98	和歌山	7	鹿児島	20
新潟	63	鳥取	0	沖縄	6
富山	8	島根	6		

[2026年 2月現在]

1,472 施設



私たちはこれからも先生方と一緒に
皆様の笑顔と美しさをお届けします

[お問い合わせ]

株式会社スキンキュア・ラボ
新潟県新潟市中央区万代1丁目3-7 NDK万代ビル5F

202602